『職業教育学研究』　2023 年 1 月号

（研究部会報告）
中国・四国地区部会 2021-2022 年活動報告　部分抜粋

１－１．河野朋子さんの回（2022/5/9）

河野さんのお父さんは 1965 年ごろ脱サラをし、電器店を始められた。その電器店は個人経営主が集まる商店街の中にあった。殆どの店が、1 階が商店で 2 階が住居という造りだった。子どもたちは、そんな「自宅＋仕事場」で育った。店の商品や修理道具を自由に触れた。壊さない限り怒られなかった。技術・職業教育を自学・自習的にしていた。店舗がご近所カフェ・サロンのように機能したり、店舗兼自宅が「放課後児童クラブ」の互助版として機能したりしていた。

河野さんはその様子を時代劇の「長屋」のような場所…と表現された。職住一体の普段の暮らしが今でいう「キャリア教育」や「職業前教育」になっていたことを指摘された。また、丁稚奉公や修行といった昔の職業教育の良さを何とか現代によみがえらせたい。これらを仮称「跡継ぎ問題研究所」を立ち上げ議論・具現化検討したいと発表された。

参加者からは、その構想に大きな賛同の声が寄せられた。また、東京月島の駄菓子屋、もんじゃ焼き屋がそれと同様な機能を果たしていることが紹介された。職業教育の場として、家庭や地域社会も重要な役割を果たしていることが確認できた。また、学会と市民の連携可能性を予感できた。